

テーマ	総合原価計算（仕損・減損）							
学籍番号							氏 名	

1. 次の資料に基づき、(1)、(2)、(3)、(4) の当月の完成品総合原価と月末仕掛品原価を計算しなさい。

当月の生産データおよび原価データは次のとおりである。

〔生産データ〕

月初仕掛品	600 個	(20%)
当月投入	1,020 個	
合計	1,620 個	
正常仕損	120 個	
月末仕掛品	300 個	(80%)
完成品	1,200 個	

※（ ）内は加工進捗度を示している。なお、材料はすべて始点で投入している。

※仕損は、通常発生する程度のもの（正常仕損）であり、1 個あたり¥100 の処分価格がある。

なお、正常仕損品の評価額は全額直接材料費の計算で控除する。

〔原価データ〕

	材料費	加工費	合計
月初仕掛品原価	¥160,200	¥32,400	¥192,600
当月製造費用	¥244,800	¥435,600	¥680,400

(1) 先入先出法 ※仕損が工程の終点で発生している場合

完成品総合原価	円
月末仕掛品原価	円

(2) 先入先出法 ※仕損が加工進捗度 50%地点で発生している場合

完成品総合原価	円
月末仕掛品原価	円

(3) 平均法 ※仕損が工程の終点で発生している場合

完成品総合原価	円
月末仕掛品原価	円

(4) 平均法 ※仕損が加工進捗度 50%地点で発生している場合

完成品総合原価	円
月末仕掛品原価	円

授業の感想など	
---------	--

テーマ	総合原価計算（仕損・減損）							
学籍番号							氏 名	

2. 次の資料に基づき、(1)、(2) の完成品原価、月末仕掛品原価、異常仕損費を求めなさい。月末仕掛品への原価配分方法は先入先出法によること。なお、正常仕損費の処理は非度外視法によること。

【資料】

① 当月の生産データ

月 初 仕 掛 品	800 個	(0.9)
当 月 投 入	5,800 個	
合 計	6,600 個	
正 常 仕 損	400 個	
異 常 仕 損	400 個	(0.4)
月 末 仕 掛 品	800 個	(0.5)
完 成 品	5,000 個	

※（ ）内の数値は加工進捗度及び仕損の発生点を示している。

※なお、材料はすべて工程の始点で投入された。

② 当月の原価データ

	直接材料費	加工費	合 計
月 初 仕 掛 品 原 価	¥60,000	¥82,800	¥142,800
当 月 投 入 原 価	¥568,400	¥793,600	¥1,362,000

- ③ 仕損はすべて当月投入分のみから生じ、仕損品 1 個あたりの評価額は正常、異常を問わず¥11 である。

(1) 正常仕損が 0.7 で発生している場合

完 成 品 総 合 原 価	円
月 末 仕 掛 品 原 価	円
異 常 仕 損 費	円

(2) 正常仕損が 0.3 で発生している場合

※異常が正常の発生点を通過している場合は、異常は正常を負担する。

完 成 品 総 合 原 価	円
月 末 仕 掛 品 原 価	円
異 常 仕 損 費	円

授業の感想など	
---------	--